はじめに……001

1章　カンチレバーの椅子に関する定義……007

1　cantilever の表記　|　008

2　カンチレバー構造の椅子を規定する　|　008

3　複雑なカンチレバーの要素を持つ椅子　|　012

2章　鋼管製カンチレバーの椅子
誕生に関する通説を再考する……019

1　これまでの誕生に関する通説とその問題点　|　020

2　先行するブロイヤーのワシリーチェアとの関連性　|　027

3　スタム、ミース、ブロイヤーのデザインと、その関連性　|　034

3章　日本における鋼管製
カンチレバーの椅子の開発……039

1　日本金属加工株式会社による開発　|　040

2　横浜船渠株式会社による開発　|　055

3　型而工房による開発　|　063

4　東京建材工業所による開発　|　072

5　日本ステンレス株式会社による開発　|　076

6　その他の企業の可能性　|　080

4章 日本の戦前期における鋼管製
カンチレバーの椅子の普及……083

1 雑誌の記事から見る普及時期 | 084
2 関東が先か関西が先か | 087
3 住宅での普及 | 094
4 公共的な建築での使用 | 100
5 ホテル、百貨店、劇場、ゴルフ場等での使用 | 103
6 ダンスホール、喫茶店等での使用 | 111

5章 積層材による
カンチレバーの椅子の開発と普及……119

1 リートフェルトのデザインとその影響 | 121
2 アアルトのデザインによる積層材製カンチレバーの椅子 | 122
3 アアルトの積層木材製カンチレバーの椅子の流行 | 127
4 日本における竹積層材製カンチレバーの椅子の開発 | 130
4.1. 日本における木製カンチレバーの椅子の研究
4.2. 工芸指導所における竹の活用政策
4.3. 工芸指導所における竹材を使用した椅子の研究
4.4. 竹積層材製カンチレバーの椅子の開発
5 ペリアンによる竹積層材製カンチレバーの椅子のリデザイン | 147
6 竹積層材製カンチレバーの椅子の普及 | 154

6章 戦前期の
カンチレバーの椅子に関するデザイン展開……161

1 海外におけるデザイン展開 | 162
1.1. タトリンの設計した椅子
1.2. ブロイヤーの設計した椅子
1.3. ミースの設計した椅子
1.4. ルックハルトの設計した椅子

1.5. エミール・ギヨとポウル・ヘニングセンの設計した椅子
1.6. イギリスの風刺画に見るカンチレバーの椅子
2 山脇巌の鋼管家具に関する形態分析 | 169
3 輸入品かそのコピー製品の椅子を用いた建築家 | 172
4 独自のデザインを施した椅子を用いた建築家 | 176
4.1. 石本喜久治の場合
4.2. 土浦亀城の場合

7章 戦後におけるカンチレバーの椅子に関する変遷 …… 187
1 戦後における起居様式と椅子 | 188
2 進駐軍への鋼管椅子納入 | 192
3 日本人に忘れられた時代 | 195
3.1. 戦後に流行した椅子
3.2. カンチレバーの椅子は忘れられていたのか
4 海外輸入品による復活 | 205
4.1. デザイン運動を通したカンチレバーの椅子の再評価
4.2. 輸入家具の増大とカンチレバーの新たな椅子の登場
5 戦後の本格的な復活と全国的への普及 | 214
5.1. 停滞する国産カンチレバーの椅子のデザイン
5.2. 国産カンチレバーの椅子のデザイン展開
5.3. 日常の生活に見るカンチレバーの椅子の普及
6 世界中で使用されるカンチレバーの椅子 | 233

8章 鋼管製カンチレバーの椅子をつくる …… 239
1 カンチレバーの椅子設計に関するコンセプト | 240
1.1. 何事も一人ではできない
1.2. 椅子と起居様式との関係
1.3. リユース、リサイクルの重要性
1.4. コンセプト

2　設計と製図　|　246

2.1. 全体の構造

2.2. 鋼管の選定

2.3. ディティールの検討

2.4. 製図

3　加工及び組み立て　|　250

3.1. 鋼管を曲げる

3.2. 曲げた鋼管を組み立てる

3.3. クッションの製作と取り付け

4　完成したプロトタイプの検証　|　253

あとがき……258

資料
戦前期において日本の雑誌に掲載されたカンチレバーの椅子……261

索引……270